

2010 年 11 月 18 日発行

1.若年女性の子宮頸がんが増えています

子宮頸がん検診の普及によって、子宮頸がんは早期で発見されることが多くなりました。0 期のがんも増加傾向にあり、2008 年度には 0 期は子宮頸がん全体の 51.4% を占めるまでになりました。子宮頸がんは遺伝等に関係なく、性交経験のある女性なら誰でもなる可能性のあるがんです。子宮頸がんの発生には HPV (human papilloma virus) 感染が関与しているとされています。最近の性行動の変化により HPV 感染の蔓延が指摘され、それに伴うと推測される子宮頸がん発生の若年化が問題となっています。近年では 20 代後半から 30 代に急増し、若い女性の発症率が増加傾向にあります。

さらに晩婚化による妊娠出産年齢の高齢化と合わせて考えると、子宮の温存が求められる機会もますます多くなると考えられます。妊娠の機会を残すことを「妊孕性(にんようせい)の温存」といいます。

2.初期のがんであれば、妊娠の希望が考慮できます

子宮頸がんの治療法には、主に手術療法、放射線療法、化学療法(抗がん剤による治療)があり、がんの進行具合や病変の場所、年齢、持病の有無により治療法が決定されます。

子宮頸がんの進行は、がん細胞が子宮頸部の粘膜にとどまっている状態の 0 期から、子宮の周りの臓器や他の臓器に転移する Ⅳ期まで分類されます。(図 1)

今後の妊娠を望む女性でも、a2 期以降になると子宮の全摘出を行うことが一般的です。0 期では、卵巣や卵管を含めて子宮をすべて取り除く広汎(こうはん)子宮全摘術が必要になり、妊娠の希望が絶たれてしまいます。

しかし、がんになる前の状態(前がん病変：異形成)や 0 期もしくは a1 期までのごく初期に発見できれば、子宮頸部の一部を切り取る手術(円錐切除術)だけで済み、妊娠や出産も可能です。



子宮頸がんの 期は、軽い方から a1 期、 a2 期、 b1 期、 b2 期に分類される。 FIGO 分類を基に作図

3.前がん病変やごく初期の子宮頸がんに対する治療

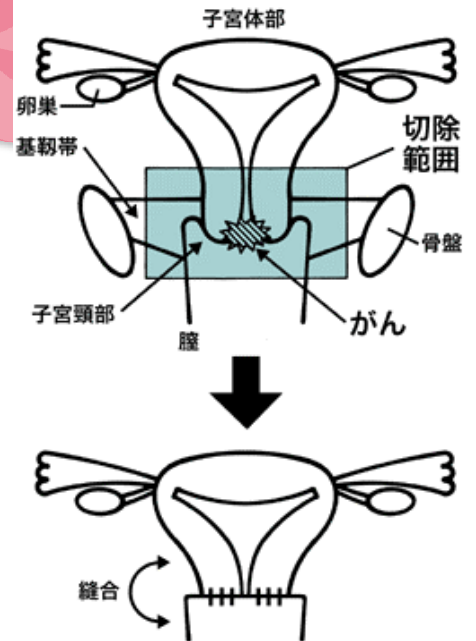
前がん病変やごく初期の子宮頸がんなら、子宮頸部の異常な細胞を含んだ部分を切り取る円錐切除術のみで治療が可能です。これは病変のある子宮頸部をレーザーや高周波メスで円錐状に切り取る手術です。円錐切除術は、子宮頸部のみの切除で子宮を摘出しないため、術後に妊娠・出産のチャンスが残りますし、体への負担も少なく済みます。(図 2)

ただし、円錐切除術で切り取った組織を検査した結果、進行したがんが認められた場合には、子宮全摘などのより積極的な治療が必要になることもあります。

図 2



図 3 腹式広汎子宮頸部摘出術



4. 特殊な手術療法もあります

上記のように、妊娠を望む方の円錐切除術による子宮温存はごく初期のがん患者さんが対象になり、それ以上の病期の患者さんは子宮全摘を行うことが標準的です。

しかし、限られた条件をクリアした強い妊娠希望のある浸潤子宮頸がん(a2 期以上)の患者さんに対して、日本国内のいくつかの施設で、腹式広汎子宮頸部摘出術という新しい手術の試みがあります。(図 3) 愛知県では名古屋大学付属病院で行っています。

この手術は、子宮体部を残し病変のある子宮頸部のみを切り取る手術です。子宮体部という、赤ちゃんの育つ部分が温存されるため術後の妊娠は可能になり、術後の妊娠・出産は欧米では自然妊娠を含めて多くの出産の例があります。しかし、子宮頸部という産道部分が極端に短くなるためか流産率はあまり変わらなくても、早産になる方の数は多くなる傾向にあるとの報告もあります。また、日本ではまだ手術自体の数が多くなく、日本での成績などははっきりわかりません。

5. とはいっても、早期発見・早期治療が一番です

各自治体で 20 歳以上の女性に対して、数年に 1 回(名古屋市は 2 年に 1 回、500 円のワンコイン検診や無料クーポン)の子宮頸がん検診の補助金が準備されています。

子宮頸がんは、初期には症状が現れにくい病気の一つです。自覚症状がないうちから、定期的に産婦人科受診をしていただき、検診を受けることを強くおすすめします。

自分と家族や子供、周りの人のためにも是非産婦人科に足を運んでください。

次回 第7回 これからの子宮頸がん対策	産婦人科 三澤 俊哉 先生 2010年11月下旬配付予定
この内容は、名古屋掖済会病院ホームページでもご覧頂けます。	<input type="button" value="えきさいかい"/> <input type="button" value="Click"/>

名古屋掖済会病院は、愛知県「がん診療拠点病院」の指定を受けました。